＜　【地域コミュニティ】分科会　トピックス　＞

活動を活性化させるためには、地域の様々な人と関わりを持ち、巻き込んでいくこと

１. 活動に対する地域の理解をどのように得るか

●実績を少しずつ積み重ね理解を得ていく

・協力者が3分の1、様子見の人が3分の1、反対派が3分の1ぐらいの比率かと思う。そういった中で、実績を積み重ねて、地域に貢献している様子を見せ、少しずつ変わっていってもらうことが重要ではないか。また、それぞれで考え方が違うという状況はどうしてもありうることなので、その違いを認めた上で、一致点で協働することを模索することも重要かと思う。

●地域へのメリットを理論的に説明する

・街路樹の管理（落ち葉問題）について、地域の方からの反対意見に対し、感情論ではなく、地域へのメリットや社会的責任について理論的な説明を行った。（昔から家の前は各自が掃除するもので、道路の利便性を享受する対価として行うべきことであるという点、街路がきれいに維持されているまちは、地価が下がる時代の中でも価値を維持している点など）

２. 地域の中で新たな参加層をいかに取り込んでいくか

●（学校との連携）学校側が動きやすい下地をつくっておく

・学校は通常なかなか動かない。とくに役所から直接お願いに行っても動いてはくれない。教育委員会の方をはじめ、学校を取り巻く関係者とのネットワークづくりを通じて、学校側も協力しやすい環境を作っていった。また環境ボランティア団体が放課後の子ども教室を行うなど、連携に向けた下積み活動があった。

●若い学生の参加等により、地域の子どもの参加機運を盛上げる

・それほどたくさん若い人が参加しているわけではないが、大学生に朝市の手伝いをしてもらうことはある。学生がレジを手伝う姿を見て、地域の子どももレジを手伝うなどの協働も拡がっている。また、蛍のイベントではＰＴＡのお母さん方に声かけをし、それを通じて子どもたちの参加につながるといったことも見られた。一方で、学校側の事情もあり、早い段階から計画に盛り込んでおいてもらうことも重要。

●異分野の団体とも積極的に交流し、活動の輪を拡げる

・地元の企業、活動団体など様々な主体が加入するネットワークに加入し、積極的に飛び込んでいって、講演会をしたり、パネル展示をしたりと、交流の輪を拡げようと取り組んでいる。自分たちの活動分野とはまったく異なる分野での集まりではあるが、そういった場に身を置くことで、地元での認知度も高まり、参加者獲得につながるなどの効果もある。